

KTK

NO.116

あらぐさ通信

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

編集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215



『お出かけしています』

Aグループ

あらぐさAグループでは、お給料を好きな事に使おうと「お出かけ」をしています。左の写真は、近所のケーキ屋さんでプリンを買ってきた時のものです。プリンを前に笑顔で期待する姿が印象的です。

上の写真は、お寿司を出前して食べた後の写真です。寿司桶で配達してもらった寿司を大事そうに受け取り、好きなお寿司をお腹いっぱい食べて満足そうな表情をされていました。外出の時の笑顔は、普段にも増して嬉しそうに感じます。これからも特別な外出を継続できればと思います。

(森下)

7月1日(土)、あらぐさ後援会総会が開催され、立命館大学教授・田村和宏さんに、グループホームづくりや福祉職員の職員へのメッセージがこめられた講演をしていただきました。その中から一部抜粋し、掲載させていただきます。

仕事をする喜び

仕事をする喜びはどんな時に感じるかという話です。何を充実することが、仕事をする上で楽しいと思えますかということですが、結局、目の前の利用者さんの笑顔だということになるわけですね。目の前の利用者さんの笑顔を見たい、一緒に喜びたい。それをするためにはどうしたらいいのかということなのです。

仕事をする喜びはどんな時に感じるのか。人間は他者との関係の中で行ったり来たりするから人となる。結局人間が変わって行くときには、一人で変わっていくわけではなくて、目の前の他者との関係の中で、関わり合いがあって、その関係の変化や高次化があって変わっていく。やはり集団が要るのではないかと思います。もう一つ、人との関係の中で変わっていく中で大事なことは、相手の人の意見とか、相手の人が言っていることに対して、いかにまずは共感できるかどうか、相手のことを思いやりながら受け止められるかということ、そういうことが日常の関係の中で作れているのが大事なことはないかと思います。

共感する事

そういう共感する力が、コロナ禍の中でなにか吸い取られていった。Zoomの画面をみながら話することはあるが、テレビを見て話のと変わらない。しゃべっていて、意見を聞いて、「うん そうなんよ、そうなんよ」と言って共感をする時って、目の前の仲間や、障害のある人たちの顔や、職員の顔が浮かんだり、子どもの顔が浮かんだりしながら、その人の「それしんどいよね」「そんな時って助けてほしいよね」と、その人の気持ちがわかったり「だったら



こんな事が大事だよね」みたいに、条件を変えていくような動きになっていく、この思いを共感することが、私は、障害者福祉の仕事の神髄だと思っています。

スキル、技術があるとかそんなことではなくて、あの人は動きは遅いけれどみんなに好かれているってことがあると思うのですよね。なんか、そういうことってすごく大事にしなければいけないことなのじゃないかと思うのです。

障害者福祉の仕事って、そういうことがベースにあって、一緒にこれしようかと言ってみたときに、一緒にやってくれるとか、いつも寄り添ってくれる、あるいは自分のことを分かってくれる人が声をかけてくれる、動いてくれる。そこに関係性を基盤にして物事や自分を変えていくというふうにつながっていくのじゃないかと思っています。

最終的にポンと背中を押すのは、面白いから動いていくのですね、その人が言うからだけではなく、

面白そうだったり楽しそうだったり、やってみたいと思っている事だったり、だから動いていく訳ですよ。それが学びにつながったり、働き甲斐に繋がったりしていくのではないかと思います。



「雑相（ざっそう）」とは

共感力をいかに養うのか、共感力とどう関わるのかという事ですが、休憩はどこでするのか、あるいはそれを保障されているのでしょうか。

休憩は車の中でクーラーかけて携帯をいじっている。休憩だから何してもいいのだけれど、僕らのイメージは、休憩室や談話室や食堂で、しゃべりながらご飯を食べているようなイメージです。今はそんなわけではない。中にはご飯を食べない人もいます。時間の主人公になって自分づくりを進められるような休憩の仕方ってあるのかな、仕事の仕方ってあるのかなと思ったりしています。

仕事は「ほうれんそう」（報告・連絡・相談）とありますが、はたしてそうでしょうか。「沈言済」とは、沈黙をして言わずに済ませる。「ちんげんさい」というそうです。実は「ちんげんさい」の学生が多くなってきています。「ほうれんそう」を上意下達の圧力とみなされるようなことから脱却して、どういふ集団をつくっていくのかといった時に、「雑相（ざっそう）」だと僕は思います。雑談から幅が広がる、話が広がりながら共感する、そして仕事の中身の話として広がったりする。雑談できるからこそ、次の展開がいろいろ生まれてくる。

びわこ学園に就職した時は、職員会議は月に2回ありました。1回は夜、1回は昼間でした。全部勤務保障でした。それはそういう労働条件を作ったからできた。でも途中からは、日中に職員会議をしたけれど、『人がいないのでしないでください。かわりに夜にしてください。代休は作ります』となった、夜2回していたら、代休がとれなくなり、それもできなくなりました。で、夜1回だけになった。情勢負けですね。

つまり職員は職員会議がきちんとできていて施設の生活や作業の質が保たれる訳ですが、職員会議がうまく設定が出来ないような状況では、質の話ができるわけがない。びわこ学園で2回の職員会議が出来なくなった頃から、情勢負けしている。年表と照らすと、そのころから重度化、医療的ケアの子どもたちが増えてきている。だからその頃に本当は人員配置基準というものを引き上げて、職員の定数を増やさせるというような要求の練り上げや運動が必要だったのでしょうか。



なかなか取り返しのつかないような状況になっている今は、違う方法でやらなければならないでしょう。「ざっそう」ができる、あるいは休憩がきちんとできて、話ができるような労働条件が作れるかどうか、そのことに、もう一度取り戻せるものがあるのではないのでしょうか。

その時には、そのことがきちんとわかっている中堅やベテランの人に、つなく働きだったり、集団から地域、社会へと繋いでいく役割があるのではないのでしょうか。若い人たちのエネルギーを、使いそびれずに表出させてあげること。エネルギーのあることに対しては、エネルギーを燃やしていくと、職場も違ってくると思います。

集団、共感する、共感しあえる労働条件

今、コロナ禍で沈んでしまった状況から、取り戻す、あるいは復活させていくものの一つとして、集団、共感する、共感しあえる労働条件、そういうことが求められているのではないかと、あるいはそれらを作っていくために、誰がどう動いていくのかという役割分担を含めて、練り直していく必要があるのではないかと思います。

京都イブニングロータリークラブ様より 応援グッズ、いただきました！



7月、35年来のあらぐさの力強い応援団、京都イブニングロータリークラブ様（写真）より、あらぐさの写真と理念がプリントされた特製ハンドクリーム120本をいただきました。すてきなプレゼントありがとうございました。

各グループからの報告



『新たなカタログ製品に挑戦！』

(Bグループ)

今年のBグループのカタログ製品は、パンダの刺繍が入った「ふわっとパンダ」タオルとクリスマスに向けたツリーの壁掛け作りに挑戦です。タオルのパンダ刺繍には糊で抜き染めをし、藍色に白のパンダが可愛く浮かび上がります。クリスマスの壁掛けは、和紙ハガキに絵具で色付けをしたツリーを貼り、その上に小さなフェルトを散りばめました。それぞれ利用者さんの得意分野を活かし、素敵な製品づくりを日々頑張っています。(高木)



『Cグループの夏野菜』 (Cグループ)

Cグループの畑活動では、今年も夏野菜の栽培に取り組んでいます。美味しい野菜を育てる為、土づくりから始めています。鍬や大きなスコップを持って一生懸命に土を混ぜる姿や、支柱を立て、苗植えに取り組まれる姿は、皆さんほんとうにイキイキとされ楽しそうな表情です。

「大きくなったかな～」と夏野菜の成長を楽しみにしながら日々、水やりや収穫に取り組んでいます。頑張って育てた野菜は美味しいとあらぐさで評判です！(岩佐)



『朝のひと時』 (ケアホームいそどり)

ききょう男性棟のリビングでは朝食が終わると、毎朝変わらぬテレビが流れます。朝の連続テレビ小説から韓国ドラマです。開所当初からの居心地の良い大切な時間になっています。

そのドラマの主題歌に合わせて、手拍子や歌声も聞こえてくる朝のききょう男性棟です。(中村)



『山椒の植樹式』 (デイ2)

職員の知り合いで、生薬会社を営まれている方から、山椒を育ててみませんかとお話がありました。食品加工のメンバーで話し合った結果、「やってみたい」との声が多くあがり、ハウスで山椒の植樹式を行いました。スコップで穴を掘り、苗を優しく植えつけました。実がなるまで数年かかりますが、収穫できる日を楽しみに、大切に育てていきたいと思っています。

(岡田)



『夏のミニカタログ』 (ワークセンター)

ワークセンターでは、今年もデイセンター2と合同で夏のミニカタログを実施しました。ワークセンターからは、クッキーやパウンドケーキを掲載しました。

地域団体への配布時には、「楽しみにしていました！」と嬉しいお言葉を頂いております。地域の方からのお言葉は、メンバーの皆さんにとって励みになっており、職員としても大変嬉しく思います。8月中には無事にお届けが終了し、メンバー同士、「お疲れ様〜」と声を掛け合っていました。たくさんのご注文ありがとうございました！

(三浦)



ワークセンターからのお知らせ

6月中旬から、イオンモール京都桂川1階の店舗「わくわく広場」で、パウンドケーキを販売しています。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

2023年度

あらぐさ後援会総会報告

7月1日(土)、あらぐさ後援会総会を開催しました。たくさんのご参加、ありがとうございました。決議事項については「付録」をご覧ください。講演については2p3pをご覧ください。

今年度も、ご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします

みんなおいでよ～あらぐさひろば 開催のお知らせ

日時：10月7日(土) 午後1時～3時

場所：障害福祉センターあらぐさ 敷地内

内容：ステージ発表(音楽、ダンス、手品等々)

ミニバザー・あらぐさ自主製品販売

コロナ対策実施(検温・手指消毒)

会場内での食事は出来ません。雨天時は中止です。

まだ暑いと思われるので、飲みものはご持参ください。

来場者へもれなく
おみやげも
あります!

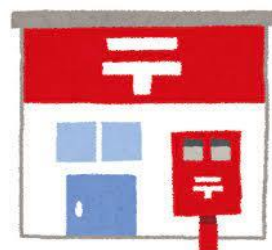
後援会費の入会・継続ありがとうございます

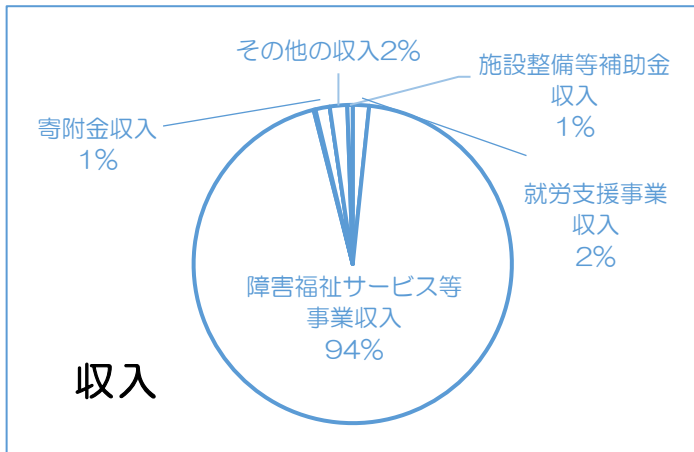
2023年4月1日～7月31日 敬称略順不同

秋山喜美江 浅野晃生 浅野真奈美 芦田幸子 芦田空 東俊明 網谷億子 荒木満 栗田士郎 栗田紀江 阿波谷陽子 栗野亜希子
安藤歯科医院安藤純夫 生路智子 池添素 池田廣子 石井憲生 石田秀子 伊地知洋晃 伊地知有華 伊藤勝久 伊藤卓次 伊藤憲一
伊藤弘紀 稲葉薫 井上世津子 井上敏子 今井和子 今井三郎 今井正 医療法人社団くぼた医院 岩崎英雄 岩崎泰子 上田和美
植田進 上野志保子 浦さち子 大城まゆみ 大塚とも子 大槻拓也 大月裕子 大槻裕治 大橋祐子 大畑京子 大林雅子 小川直
小川貴士 奥山弥生 小田淑子 特定非営利活動法人乙訓介護サービス 乙訓地区労働組合協議会 乙訓手をつなぐ親の会 垣内望美
医療法人社団片岡診療所 片山雅代 加地祥志 勝山宏一 勝良和子 桂誠司 門野陽子 金子美智子 鎌田桂子 亀川義昭 川瀬明子
河村雅之 神田千秋 菊井誠 岸陽子 木村栄美子 木村忠 久保節子 鞍貫聡史 倉橋克之 小寺久美子 小林圭子 小松仁美
近藤健二 斉藤泰樹 崔本明美 株式会社坂本建設 佐々木康二 禎山幸重 佐藤敦子 佐藤卓利 佐藤洋 佐野碩治 塩尻光明
志賀妙子 柴田和泉 森谷千砂子 嶋本芳輝 嶋本美恵 鈴木純子 鈴木堂司 鈴木千賀子 角誠一 角摂子 住田珠江 瀬川光子
瀬川良介 関節子 宋彦一 田上玲子 高木夏季 高橋恭三 高橋すなお 高橋久美子 滝川正幸 竹下久美 竹下誠 武永健二
田坂靖子 多田久美子 建山昌子 田中皓大 谷口忠行 谷口弘子 俵福造 塚上公治 株式会社社工務店代表取締役辻正志 津田拓也
土岡ひとみ 出口志鶴子 寺岡敬博 東宮健史 富島ますみ 内藤秀春 内藤敬子 内藤基雄 永崎みさと 永崎靖彦 中谷ちよみ
司法書士中西正人 中野円 中野史子 中野司 中本式子 中山恵美子 中山千恵子 西幹男 西井美千代 西田浩子 西村宗昭
長谷川朋子 長谷川長昭 波多由紀子 島中清子 島中勇治 八田萬喜雄 林慶子 林広子 原木とし子 原田文孝 春田石油有限会社
平井多津子 平田喜洋 平塚洋子 平野路予 平野和彦 平野元子 平山功 廣瀬彩子 広瀬美砂 福元晴茂 福山八千代 藤原啓子
別府哲 細井雅代 細井のぞみ 本田章子 前田幸子 前田真之介 増田弘子 増田康夫 増田靖子 松井亜矢子 松居正利 松浦佳織
松永里子 松間卓 松村美代子 松本美津男 真殿尊子 丸山彰子 三浦朱葉 三浦次郎 三木孝子 三木裕和 三谷文菜 南やすこ
南下美津子 三宅州人 宮崎俊一 宮嶋均 宮嶋節代 宮田啓子 三柳美里 宮本史朗 村上宏 村上すみ子 村上久代 村野英介
村山容祥 森清 森下純平 森本達也 守屋伸江 森山正博 八木勝光 八木幸一 安井芳幸 (有)ヤスイカメラ 安田耕治 安田隆
安田弘 安武梢 安武真理 藪見富喜男 山川洋子 山川紘一 山口計子 山口隆史 山口武彦 山口都子 山崎諭 山下紀子
山本朝栄 山本義則 山本恭子 (株)ゆう建築設計事務所代表取締役砂山憲一 横川和男 横川喜美江 横川安子 山根信子
藤井恵子 専修院福本哲了 横山和子 吉川百合子 米本久子 療術院うえの上野徳太 佐々木規子 大村祐司 新井嘉彦 足立さやか
西山いづみ 匿名34名

後援会への入会・募金のお願い

あらぐさ後援会の活動やあらぐさ通信の発行・発送は、皆様からの会費や募金によって支えられています。継続の会費納入がまだの方がおられましたら、同封している振込用紙をお使いいただき、ご入金の程、よろしくお願いいたします。



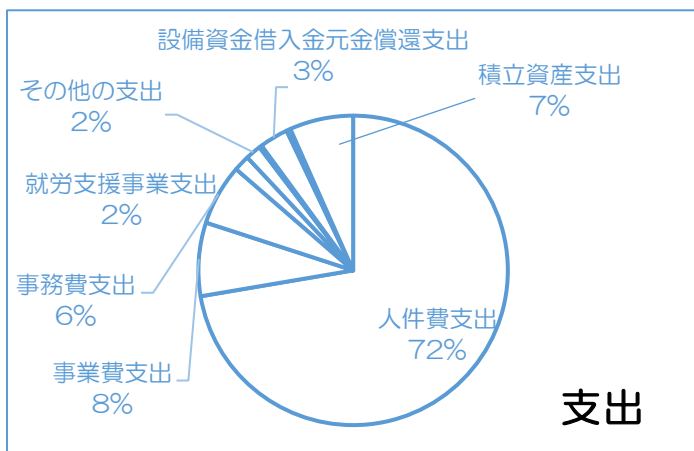


(収入)

障害福祉サービス事業収入（4億3千万円）
 …障害福祉サービスに対する国、地方公共団体からの介護給付費

(支出)

人件費支出…常勤職員 56 人 非常勤 75 人
 事業費…主に利用者の活動に関わる支出
 事務費…運営事務に要する支出
 借入金元金償還支出…建物・土地の借入金返済



(令和4年度の特徴)

収入の部では、新型コロナウイルスの影響があったものの共同生活援助や居宅介護事業等の利用が年々高まっていることに加え、新しくベースアップ等支援加算ができました。また京都府や長岡京市によるコロナ関係の補助金もあり、増収となりました。

支出の部では、人件費が72%と大部分を占めています。また設備資金借入金元金償還支出として総支出の3%の額を返済しています。

財務諸表についてはあらぐさホームページに公開しています。

<http://www.aragusa-fukushi.jp/>

まもなく、ホームページがリニューアルされます。お楽しみに！

理事会・評議員会報告

6月25日、役員（理事及び監事）の任期満了に伴い、評議員会にて次期役員、理事会にて理事長が次のように承認されました。任期は2年です。

理事

・小川貴士

・小野洋史(新規)

・佐藤卓利

・角攝子(理事長)

・永崎靖彦

・古川拓

・三木裕和(新規)

・小坂文夫

・上村義美



また、任期半ばで評議員2名が辞任され、新たに2名が評議員選任委員会にて承認されました。任期は4年です。

評議員

・清水陽一(新規)

・萩原暢子(新規)

現評議員

・網谷億子

・荻野和雄

・桐山俊宏

・竹下誠

・中川千津子

・丸岡正子

・森本恒治

(五十音順・敬称略)

あらぐさと私

(株) 魚国総本社 給食調理員

福永 陽子さん

(ふくなが ようこ)



あらぐさ福祉会設立当初からお世話になっております。厨房で給食を担当している福永陽子と申します。とても働きやすい施設に恵まれてあっという間に18年が経ちました。



給食会議で毎日給食を皆さんが楽しみにしておられると聞いてとても嬉しく思っています。

常日頃から、彩り盛り付けと見た目でも楽しんで頂ける食事、尚且つ午後からの活動も元気に取り組めるよう元気の湧いてくるような食事を提供していきたいと思っています。

最近の献立の中では郷土料理に皆さん興味があるようです。終息の見えないコロナ禍において、まだなかなか外出しにくい環境で、ご当地メニューはとても嬉しいと聞いています。

私もまだ食べたことのないメニューが出てくるので、勉強になります。



洋食のメニューは変わらず人気がありますが、やはり、中でもだんとつの人気メニューが、鶏のから揚げです。利用者の皆さん、職員の皆さん共にとても人気があり、毎回残食はほとんどありません。残食の少ないメニューの時は、皆さんが喜んで食べてくれたんだと私たちの励みにもなります。

ほとんどの利用者の皆さんにとって、食事は毎日の楽しみの一つであると思いますが、中には食べることを苦手とする利用者さんもいらっしゃいます。そのような利用者さんにも、ただ栄養を摂るだけの食事では無く、楽しんで食事をして頂きたいと思っています。

利用者さんの食事形態(ペースト・おかゆ・極刻み・刻み食・とろみ付け等)もさまざま変わってきていますが、私たちは利用者の皆さん全員が完食出来るように、これからも対応していき、日々の残食を見ながら、改善できる所は工夫して皆さんに安心安全そして満足して頂ける食事を、今後も提供していきたいと思っています。

これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

訂正のお知らせ

115号「アートなひろば」の下記の作品のお名前に間違いがありました。お詫びして訂正させていただきます。



(正)

裂き布マット「LOVE」

作：長澤直道さん

1992年6月5日 第3種郵便物承認 (毎月1回25日発行) 2023年9月13日発行
KTK増刊通信巻第5405号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8144 京都市上京区丸太町通黒門東入藁屋町536-1 元待賢小学校1階
京都障がい病院内 発行人 高谷修 頒価50円 (購読料は会費に含まれています)

KTK

あらぐさ通信